

「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和5年5月12日(金) NO4 文責 木下^{きした} 文秋^{ふみあき}

五ヶ瀬の荒踊り

宮日新聞の一面に「この地で生きる～中山間地域のいま」と題して記事が連載されています。今週は五ヶ瀬町の荒踊りが載っていました。その中で荒踊り保存会のメンバーで長田慎司さんが紹介されていて、伝統芸能の継承に懸命になっているという記事に目を通したところです。私は初任から10年間を西臼杵地区で過ごしました。初めの5年間を高千穂中、その次5年間を三ヶ所中で過ごし、長田さんは三ヶ所中の時の教え子です。記事を読むと、過疎化、少子化が進み、さらに若者の都市部への流出も相次ぎ後継者がいないこと。さらにコロナ禍で3年間踊りを奉納できていないことが書かれています。私が10年間過ごした高千穂町も五ヶ瀬町も伝統芸能が盛んで、高千穂の夜神楽や五ヶ瀬の荒踊りは全国的に有名でした。そして、地域住民が地元を誇りを持ち郷土芸能をととても大事にしていることが伝わってきます。教え子である長田さんが五ヶ瀬町でふるさとに誇りを持ち頑張る姿を記事で目にしてとてもうれしく、応援したいと思いました。

5月8日以降の学校の様子

コロナ感染症の取り扱いが5月8日から見直されました。濃厚接触者の特定や検温の義務がなくなったりしています。出席停止の扱いも少し変わりました。世間では、検温器や消毒液、パーテーションなどが撤廃されていると思います。学校の様子はというと、マスクについては、殆どの生徒が付けたままです。昼休みや部活動の時間は外す時間が増えたと思いますが、校内では依然として高い割合です。校長会で確認しましたが、この状況は市内どこの学校も同じで、マスク着用が必然的になっています。着脱は個人の判断ですが、夏場あたりから外す生徒が増えるかもしれないと予想しています。職員のマスクも「感染源になってはならない」という不安が大きいのだと思いますが、あまり変化はありません。しかし、感染者がゼロにはなっていませんし、3年間費やしたことを急に変えることは容易ではありません。また、感染対策に強制や、抑圧が加わることもあってはなりません。時間をかけてじっくりと丁寧に、元通りの生活を取り戻す準備を進めていきたいと思っています。

